

❀ 春だから国際交流 ❀

国際交流センター主催 1年間のイベント

東京家政学院大学では、一年間を通して様々なプログラムを開催しています。

<4月>

*海外協定校短期研修&短期交換留学説明会

日時：4月27日(木)12:40～

説明動画も配信予定です。

本学学生が参加できる短期研修・短期交換留学先

吉林外国語大学(中国)／釜山女子大学校(韓国)／

韓南大学校(韓国)／

カリフォルニア州立大学モンテレーベイ校(アメリカ)／

コンケン大学(タイ)

場所：千代田三番町キャンパス 1107 教室

町田キャンパス 1204 教室

(申込不要、昼食持参可)

*英語サロン 4月より開始します。

Organizer：Mark Lewis(本学専任教員)

Place1：Machida Campus Library

Dates&Time:

April：19, 26 May：10, 17, 24, 31

June：7, 14, 21 12:40-13:10 p.m.

Place2：Chiyoda Sanbancho Campus, Room 1214

Dates&Time:

April：21, 28 May：12, 19, 26

June：2, 9, 16, 23 12:40-13:10 p.m.

<7月>

*八王子市立横山第一小学校特別支援学級との交流授業

<8月>

*中相原町夏祭りの参加

<前期中>

*留学生のための芸術文化鑑賞会

☛2022年度の開催報告は p.2 に掲載

<10月>

*スピーチリサイタル

<11月>

*釜山女子大学校との文化交流プログラム

☛2022年度の開催報告は p.2 に掲載

*国際交流センター映画上映会

<2月>

*ニチケアセンター八王子館町との交流

*ホームステイ・ホームビジットプログラム

*八王子市立横山第一小学校 6年生との交流授業

(状況により変更の可能性があります。詳細が決定次第ご連絡をいたします。各プログラムの詳細は p.4 掲載の各学科教員が学務室にお問い合わせください。)

いろいろ募集中

*日本語会話パートナー

～留学生との会話を楽しみましょう～

申込先：iec@kasei-gakuin.ac.jp

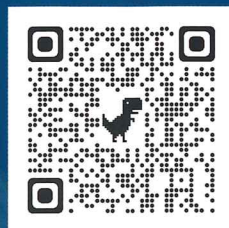
随時募集

件名は「日本語会話パートナー」として、本文に学籍番号と氏名(読み方も)を記入してください。

*言語チューター&アメリカの大学生とのオンライン交流

申し込み方法：

2023年4月21日(金)までに下のQRコードから申し込んでください。



▲文化交流プログラム 高尾山薬王院



▲芸術文化鑑賞会 バスツアー

文化交流プログラムを開催しました

2022年12月3日(土)にリモートでスピーチリサイタルが行われ、その後に文化交流プログラムが行われました。スピーチリサイタルに参加して下さった韓国、中国、タイの学生、教員の皆様に、食物学科3年生の6名がパワーポイントを用いて日本文化の紹介を行いました。

テーマは『日本のビーガン食ー精進料理についてー』で、①本学の概要、②ヴィーガン、③精進料理、④高尾山について紹介しました。本学の概要については、2023年に創立100周年を迎える歴史と伝統のある女子大学であり、家政学を総合的に学べること、学科は現代家政学科、生活デザイン学科、食物学科、児童学科、人間栄養学科があること、町田校舎は高尾山にも近いことを説明しました。ヴィーガンについては、完全菜食主義であることに加え、化粧品にもヴィーガン向けのものであることや、食物学科の校内給食管理実習で提供したヴィーガン献立の紹介もしました。日本のヴィーガン食としての精進料理については、その歴史と共に、大豆・大豆製品を主なたん

ぱく質源にしていること、大豆製品には多種あること、だしは昆布からとり風味良く仕上げられていること等を説明しました。高尾山については、豊かな自然に生息する動植物のこと、都心から最も近い登山スポットとして来日外国人に人気があることに加え、高尾山の薬王院で食べることができる精進料理と実際にその精進料理を食べに行った際の体験内容について説明をしました。

説明終了後は、参加者の皆さんの国に精進料理のような料理があるかや、精進料理の金額等の質問が出され、楽しく交流をすることができました。リモートでパワーポイントを用いた紹介だったため、少しい方的な紹介であった点もありましたが、今回担当した食物学科の学生たちには、交流会の準備をするにあたり、人生で初めての精進料理や高尾登山の経験を通して、これまで知らなかった日本の文化や地域の特色を知ることができたよい機会になったようです。

留学生のための芸術文化鑑賞会を開催しました

2022年10月16日、留学生のための芸術文化鑑賞会を実施しました。現代生活学部生活デザイン学科に在籍する留学生6名および教員2名が、バスツアーと美術館・博物館めぐりを行いました。

バスツアーでは、眺望が良い2階建てバスに乗車し、東京駅を出発しました。先ず、桜田門では、バスガイドさんの案内に耳を傾けながら、桜田門外の変に思いを馳せました。その後、国会議事堂、霞ヶ関と進み、日本の政治の中心地を通り抜けました。そして、東京タワーを真下から鑑賞し、5年に一度、職人さんの手によってペンキの塗り替えがなされているこ

とを学びました。レインボーブリッジからは、お台場の素晴らしい海の景色を楽しみ、そして、豊洲と築地へと進みながら現代とかつての首都圏の基幹市場など、都市計画について考える時間を過ごしました。最後に、歌舞伎座や銀座で、街の賑わいを眺めながら、今も変わらず人々が行き交う街並みを堪能しました。

これから2か月をかけて、各留学生の興味・関心に沿った、美術館・博物館めぐりを行います。留学生の皆さんが、実体験を通じ、日本の文化、そして、日本から見る世界の文化を学んでいくことを願っています。

あなたが着ているその服は…？

大学院人間生活学研究科・生活デザイン学科 花田朋美

あなたが今着ているその服は、何からできていますか？そしてどこで作られたものですか？私の授業の第1回目には、そんな問いかけをしてみます。しかし、答えることができる学生さんは殆どいません。服を選ぶときに色やデザインには注目しますが、その服の素材やその服がどのように作られているのかを気にすることがなく、あまり意識したことがないのだと思います。

現在のファッション産業は、グローバル化が進み、材料の調達から生地、衣服の製造、輸送、販売、廃棄までが分業化され、長いサプライチェーンが特徴となっています。日本で売られている衣料品の約98%が海外からの輸入品であるといわれています。また、国内のアパレル市場規模は1990年代と比べると金額では約65%に減少しているにも関わらず、供給点数は約倍増しているとの報告があります。即ち、服の購入単価が安くなり、大量生産・大量消費が行われているのです。更に、1着のライフサイクルが短くなり、大量廃棄に繋がっ

ています。このような大量生産・大量消費・大量廃棄が行われていることや長いサプライチェーンであることから、ファッション産業は環境負荷の大きな産業であるといわれ、これは日本国内だけではなく国際的な問題になっています⁽¹⁾。

近年、そのようなファッションのあり方を見直し、持続可能なものにアップデートするための取り組み—サステイナブルファッション—という考え方が少しずつ広がっています。私の研究室でもその一端として、環境配慮型の生分解性繊維を衣服に活用するための研究を進めています⁽²⁾。

学生さんには、自分が着ている服がどんな材料からできていて、どのように作られているのかを知ることから始めて、環境に配慮する思考を身につけてほしいと思っています。選ぶのは私たち消費者です。何を選ぶかで地球環境を変えることができます。買い物には責任があることを心に留めておしゃれを楽しみたいものです。

(1) 出典：環境省 HP https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/

『環境省令和2年度ファッションと環境に関する調査業務「ファッションと環境」調査結果』



(2) 『ポリ乳酸繊維の活用で、衣服の環境負荷低減へ！』

<https://academist-cf.com/projects/240>



▲文化交流プログラム 薬王院の精進料理



▲芸術文化鑑賞会 みんなで仲良く2階建てバス



国際交流センター構成員より一言

太田 茜（現代家政学科）

センター通信 33 号でラジオの英語講座に触れましたが、アプリのおかげで一年間講座をきくことができました。実際にオンラインの講演等で聞き取れることが少し多くなった気がします。外国語は継続と実際に使う機会が大事ですし、英語サロン等で気軽におしゃべりできる環境があるので皆さんもチャレンジしてみませんか？

マーク・ルイス（現代家政学科）

The International Exchange Center invites all interested students to practice speaking conversation in the weekly English Salon. Offered at lunch time, on both campuses, participate in the fun and casual English Salon to keep your English flowing smoothly. I'm looking forward to seeing you there!

森 朋子（生活デザイン学科）

学生の皆さんから「国際交流には興味があるけど、やってみる勇気がない」ということばをよく聞きます。国際交流は飛び込んだもの勝ち！飛び込んだ人が、まっさきに必ず言うことばは「楽しかった！」です。

山田 正子（食物学科）

2022 年度もあまり活動ができませんでした。そろそろ活動できる兆しが見えてきたように感じています。2023 年度は、留学生と地域の皆様と一緒に活動を少しずつでも再開したいです。

中田 範子（児童学科）

国際交流センターでは、各種国際交流の機会を提供しています。コロナ禍での国際交流は困難なこともありましたが、オンラインで外国と気軽に繋がることの楽しさを体験できました。身近な場所で国際交流を楽しみましょう。

田中 千晶（人間栄養学科）

新型コロナウイルス感染症が収束していないなか、国際交流センターでは、主にオンラインを用いて在学生の皆さんが複数の国の人々と交流する場を継続して提供しています。皆さんのご参加を楽しみにしております。

学務室

オンラインでの交流がすっかり定着して、本学の留学生だけではなく、海外の協定校の大学生との交流が当たり前に行われるようになりました。オンラインでの気軽な交流、留学しての本格的な体験など、選択肢が増えたのですね。

花田 朋美（生活デザイン学科・大学院研究科）

まずは、知ることから始めましょう！一歩踏み出す勇気と好奇心が壁を低くするのかもしれません。

本学が目指すべき国際化の理念

女子大であり家政系の大学である本学では、その特長を活かし、本学にふさわしい国際化を目指す。すなわち、学校、職場、地域にあって、「生活者」の立場から、異文化を受け入れ、多文化共生を図れる人材を育成することを理念(目的)とする。「人材」には、学生のみならず教職員および地域住民も含む。具体的には以下の力を涵養していく。

- (1) 他者を国籍、民族、性別、年齢などの枠で判断するのではなく、同じ人間として心を開き、相手の人権を尊重することができる。
- (2) 自国文化も他国文化も数ある文化の中のひとつとして客観的に捉えることができる。
- (3) 国際情勢に関わる情報の本質を理解することができる。
- (4) 本学で展開してきた知識体系の蓄積を発信することで国際社会に貢献できる。
- (5) よりよい社会および世界を構築するために、自分ができることを見だし、実行していくことができる。

